

二〇二四年度

# 入学試験問題

## 国語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

- 一、問題冊子は監督者の指示があるまで開いてはいけません。
- 二、監督者の指示により、最初に問題冊子の表紙と解答用紙の、指定されたらんに受験番号と氏名を記入してください。
- 三、試験問題の内容に関する質問には応じません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
- 四、受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てくださ  
い。
- 五、字数に制限のある問題では「、」「や」「。」などの記号も一  
字と数えます。
- 六、解答用紙は持ち帰らないでください。

受験番号			
1			

氏名

〔二〕 次の――部のカタカナを、漢字に改めなさい。

- ① 実寸大のモケイを展示する。
- ② シュノウ会谈が行われる。
- ③ 五十音順にブンルイする。
- ④ 祖母のタンジヨウ日を祝う。
- ⑤ プレゼントをホウソウする。
- ⑥ トトウを組んで立ち向かう。
- ⑦ リエキを計算する。
- ⑧ 問題を解決にミチビく。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、筆者はこの直前の部分で「大人」という概念は年齢とも性別とも無関係なものであると述べています。

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します



問四 ――部3「このごろの鏡は、もうむかしのようなガラスを使っていないようだ」とありますが、この一文から読み取ることが出来ることとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 年を取って対象を正しく認識・把握する能力が衰えてしまった結果、もはや現実と妄想の狭間で寂しく漂うしかない老人のはかなさを、壊れやすいガラスに重ね合わせて示そうとしていること。
- イ 自身が老い衰えているだけであるにもかかわらず、そのことを正しく把握できず、身の回りの変化全てを外的な要因によるものとして、老人が自身や周囲の変化に全く目を向けようとしないこと。
- ウ 時代の変化と共に変わらざるを得ない生活用品と、年老いていくことで社会から切り離され活躍の場を失っていく自分自身を対比し、その情けなさに嘆いていること。
- エ 若さや新しさのみ価値を見いだす社会について批判的な精神を持って声を上げたとしても、それが年を取った老人によるものであるがために、その主張や姿が正しく世間に伝わらないということ。

問五 に入れるのにふさわしいことばを五字以内で解答欄に記しなさい。

問六 に入れるのにふさわしい表現を自分で考え、五字以上十字程度で解答欄に記しなさい。

問七 次の(1)・(2)についてそれぞれ問いに答えなさい。

- (1) 次の記録は本文を読んだ後に実施した話し合いの様子です。生徒A～Dの中から、明らかに本文で述べられた内容と合致しないことを述べているものを一人選びなさい。

生徒A 「人間として老成している」とあるけれど、もちろんこれは年を取って老いている、ということではなくて、きちんと知的に成長を遂げているから変に浮ついていない、という点で思慮深い人間で、そういう人間こそ大人なのだ、ということだよな。

「大学一年生の平均年齢が、どう見ても七歳以上には見えなかった」というのは強烈だね。筆者はこれを「老人の心理をすくいとって」と述べているけれど、これはどういうことかな？

生徒B それはつまり、老人は必ず昔の自分とくらべて、今の人はちゃんと大人になりきれていなくて幼いのだ、という真実に気付いてしまうということだろうね。知的に成長を遂げたからこそ真実を見極める目を獲得することができるのだろうか。

筆者は一人前の大人であるということの「悪い面」についても言及しているね。「もののわかった大人である」ということの、どんな点が悪いのだろうか？

生徒C そうだなあ。たとえば、大人としての知識や経験を積み重ねていくと、物事がこれからどう進んでいくのかということもなんとなく「分かっってしまう」ようになるのかもしれないね。そうす

ると、「きつ」とこうなるはずだからこれはこのあたりで手を引いてしまおう」といった形でチャレンジをしなくなるといえることがあるかもしれないね。

生徒D なるほど。たしかに果敢にチャレンジをしないとすれば無難な結果は得られるだろうけど、画期的な成果を得ることは難しくなるだろうね。それを筆者は憂慮して、「悪い点」だと指摘しているのだろうね。

(2) 本文と「資料」を参考にしつつ次の二人の生徒の会話を読み、 (すべて同じ表現が入ります) に入れるのにふさわしい表現を五字程度で自分で考え、解答欄に記しなさい。

## おとなし

【大人し】

いかにも大人らしく見えるようす

未然形 おとな・しく おとな・しから	連用形 おとな・しく おとな・しかり	終止形 おとなし	連体形 おとな・しき おとな・しかる	已然形 おとな・しけれ	命令形 おとな・しかれ
--------------------------	--------------------------	-------------	--------------------------	----------------	----------------

① いかにも大人らしい。大人びている。成熟している。  
 ② 年配で  
 ③ 温和だ。穏やかだ。素直だ。◎中世以降の用法。

「少し大人しき程になりぬる齡はながら扱ふ人もなければ、さうさうしきを。」(源氏・澁標) ◎「私も少しは年配で世話する子供もいないので、寂しいなあ。」  
 ◎「中世以降」温和だ。穏やかだ。素直だ。  
 うららかに言ひ聞かせたらんは、大人しく聞かえなまし。  
 <徒然草> 24 人のものを問ひたるに「國率直に説明してやつたしたら、きつと穏やかに相手に聞かえただろうに。」

【類語】の成り立ち 成人や中心的な立場の者という意味を表す名詞「大人」が形容詞になったもの。

【資料】「おとなし」の字義  
 (中村幸弘 編 「ベネッセ全訳古語辞典 改訂版」)  
 ベネッセコーポレーション 2016

生徒E 古語辞典で「おとなし(大人し)」という語を調べてみたところ、この語にはいくつかの意味があることがわかったよ。①の「いかにも大人らしい」や「大人びている」の意味は、「大人し」の漢字の意味そのままのイメージでわかりやすいね。

生徒F そうだね。②の意味の「年配で」というものはまさに筆者の指摘するものだね。コミュニティ(集団)の中心には色々な経験に基づいた判断ができる人間がいるように思えるからね。もしかしたら③の意味は中心的な立場に立つひとの性質が「穏やか」だったり「温和」だったりするところから派生して来たのかもしれないよね。

生徒E なるほど。もしかしたら本当にそうなのかもしれないね。「言葉の由来」を想像してみる、なんていうのも面白いものだね。



〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

問一 ――部1「気持ちが凜いでいく」のここでの意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 冷静さを取り戻すことによって、集中力が増してくる。

イ 単調な音が繰り返されることで、ふと眠気に襲われる。

ウ たとえ一人でいても、特に寂しさは感じないでいられる。

エ 日々のつらさを忘れることができ、気分が落ち着いてくる。

問二

□にあてはまる語を、本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問三

――部2「きらきらした笑い声」の説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 意外な展開に驚きを隠せないで発する、他意のない笑い声。

イ 目にしたことを純粹に面白がっている、明るいつ笑い声。

ウ 秘密にしておけず周りに気づかれてしまう、高い笑い声。

エ 周りの人も思わずつられて笑ってしまう、大きな笑い声。

問四

――部3「心のなかでガッツポーズをした」とありますが、ここに至る真歩の心情の説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 入部する前から「私もこんな人になりたい」と憧れていた鶴先輩が部長を務めていると知り、応援したい気持ちでいるとともに、鶴先輩に憧れて受験勉強を頑張った自分が何かを達成したような気分になった。

イ 男子も数人いるなかで、ほんわか女子の鶴先輩がリーダーシップをとっているということが、私自身この書道部での活躍を保証してくれているような気がして、ここで頑張ってやっという感じが盛り上がった。

ウ おだやかな雰囲気をもっているのに、パフォーマンスになると体中のパワーを爆発させる芯の強さを持った姿に真歩が憧れを感じた先輩が、いざ入部してみたら部長を務めていたので、一層気持ちが盛り上がった。

エ 柔らかな雰囲気をパフォーマンスで吹き飛ばす力強さを発揮する鶴先輩がこの書道部の部長であることが誇らしい気分になり、弱々しい自分もここで頑張ることですれ部長として活躍する未来が想像できた。

問五 —— 部4「そっか……」とありますが、この時の鶴先輩の心情の説明として、最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 高校の部活動に中途半端な気持ちで取り組んでいる真歩に小言を言いたいが、どう話せば自分の思いを分かってくれるだろうかと迷っている。

イ 真歩の通学時間の負担から転校を考えるべきではないかという提案をしようと思ったが、話のきっかけが上手くつかめなくて困っている。

ウ 墨を擦ると鬨志がみなぎってくるはずなので、真歩のことをばを聞くと、真歩が書道を理解していないことが分かり、部長として少し残念である。

エ 真歩が気に入っている部活動を自分が辞めさせるのは申し訳ないような気もするのだが、部員の体調管理も部長がすべきことだからやむを得ないと思っている。

問六 —— 部5「はい……」とありますが、この時の真歩の心情の説明として、最もふさわしいものを次の

ア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 今日の部活で「睡蓮」と「睡眠」を書き間違えたのはさすがにまずかったかなと後悔している。

イ 高校入学間もない後輩に大学受験のことを話すのは気が早すぎるのではないかと困惑している。

ウ ここまでの話の流れのあとに鶴先輩はどういう妙案を出してくれるのだろうかと期待している。

エ 通学時間の負担にふれてまでしてなぜ鶴先輩は私に正論で迫ってくるのだろうか戸惑っている。

問七 —— 部6「折れた筆じゃ、もう書けない」とありますが、どういうことですか。真歩の心情の説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 鶴先輩が私に告げた「転校」という言葉によって私の頭はひどく混乱しているということを伝えた

いのに、それを表現する手段を奪われてしまって、どうしていいか分からないということ。

イ 中学二年のときに見た先輩のパフォーマンスが私の心をささえる原動力になっているのに、その当人から転校をすすめられては、この先何を目指して頑張っていくべきかわからないということ。

ウ 初めて鶴先輩と親しく会話ができる機会だというのに、鶴先輩が私に話したいことが、私がこの高校を辞めた方がいいのではないかという提案で、それはあまりにも理不尽だと思うということ。

エ 鶴先輩に憧れて、苦しい受験勉強も乗り越えてこの高校にやっと入学したのに、その鶴先輩に退部を促されるというのは、たとえそれが親切心からであっても悔しくて仕方ないということ。

問八 ——部7「その口調が何だかしっとりしている」とありますが、どういふことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 苗字が鶴になったことにどうにも納得がいけないという思いが鶴先輩にあって、「鷹が好きだった」とあえて話し始めたように真歩には感じられるということ。

イ 「鷹が好き」ということばの表面にあらわれないふくみが鶴先輩の言い方には感じられて、何らかの背景を持ったものであるように真歩には聞こえるということ。

ウ 一昨年のパフォーマンスを真歩が覚えていることを喜ぶ鶴先輩の気持ちだが、「鷹が好きだった」ということばにもつているように真歩には感じられるということ。

エ 「鷹が好きだったから」というシンプルな答えで真歩をごまかし続けることに、鶴先輩がかすかな後ろめたさを感じているように真歩には聞こえるということ。

問九 ——部8「青臭い反抗心みたいなもん」とありますが、そう言っている鶴先輩についての説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 母親の再婚によって自分まで苗字を変えなければいけなくなつたことに納得がいかなかったのは、当時の自分がまだ聞き分けのない子どもであつたからだ、今では自覚している。

イ 母が再婚して自分の苗字も変わつてしまい、それまでの自分が消えてしまったような気がしていたのに今はもう納得しているのは、自分が子ども時代の鋭い感性をなくしてしまつたからだと嘆いている。

ウ 綺麗に舞う鶴よりも鋭い目つきで獲物を狙う鷹でありたいとこだわり続けてきたのは、自分の能力を過信していたからだと気付き、まわりが見えていなかったことに少し恥ずかしくなっている。

エ 親の事情に振り回されずに自分自身を貫こうとすることは、たとえその時の自分が未熟な存在であつたとしても、けつして譲ることはできない一線だつたと、今でも思っている。

問十 ——部9「何だかヒリヒリした」とありますが、真歩がこのように感じた理由として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 傷口に塗る薬がかえつて傷口がそこにあることを意識させてしまうことがあるように、これからどうするべきかを迷っている自分に、鶴先輩が決断を迫っているように感じられたから。

イ 変化に柔軟になつたほうがいいときもあるというのはその通りなのかもしれないけれど、それを受け入れるほど大人になつていない今の自分には、まだ抵抗を感じてしまうことばだから。

ウ たとえ鶴先輩の優しさから出たことばだとしても、転校をすすめることは私を遠ざけることに他ならず、「変化に柔軟になる」というのはそのことを取りつくりするための方便であると感じるから。

エ 親の事情と自分の思いに折り合いをつけることの大切さを見いだした鶴先輩が、パフォーマンスで「鷹」と書いたあの気迫を失ってしまうのも当然のことだと納得したから。